

◆比較検討のための参考情報

	①ミップル集約プラン	②みやづ歴史の館リノベーションプラン	③島崎エリア本館新築プラン
	ミップルビルを取得し、2階をリノベーションして庁舎使用。(1階、5階は民間貸し出し) プラザ(図書館等3階、庁舎等4階)は継続 最速移転時期：R10	みやづ歴史の館(文化ホール以外)をリノベーションして庁舎使用。(中央公民館機能等は移転) プラザ(図書館等3階、庁舎等4階)は継続 最速移転時期：R11	宮津会館を撤去して、6階建て官民合同施設を建設。3階までを新庁舎とし、4階以上をホテル等として民間貸し出し。 プラザ(図書館等3階、庁舎等4階)は継続 最速移転時期：R14
市民利便性 *アクセス *ワンストップ *ついで利便	(公共交通)バス停隣接、駅からは800m (自家用車)アクセス道路幅員十分、駐車場十分 集約方式となることから、手続きの窓口はワンストップ 商業施設併設であり、「ついで利便」は高い	(公共交通)駅・バス停から500m (自家用車)アクセス道路幅員狭い、駐車場増設が必要 プラザとの分散方式となることから、手続きの窓口は現状と変わらない 文化ホール併設であるが、「ついで利便」が高いとは言えない	(公共交通)駅・バスから500m (自家用車)アクセス道路幅員狭い、駐車場増設が必要 プラザとの分散方式となることから、手続きの窓口は現状と変わらない 民間ホテル等併設であるが、「ついで利便」が高いとは言えない
職員の利便性 *業務効率 *働きやすさ	集約方式となることから、職員の協議等での移動は少なくなる フロア数は2フロア(プラザ2フロア)となり、現状(6フロア)より改善	分散方式のままであり、職員の協議等での移動は現状と変わらない フロア数は5フロア(プラザ1フロア、歴史の館4フロア)となり、現状(6フロア)より若干改善	分散方式のままであり、職員の協議等での移動は現状と変わらない フロア数は4フロア(プラザ1フロア、新庁舎3フロア)となり、現状(6フロア)より若干改善
防災性 *立地の防災性 *建物の防災性 *災害対策拠点 *市民避難場所 *有事の市役所業務継続	(津波)津波想定0.3m未満の区域である (土砂)土砂災害想定区域ではない (内水)浸水0.5m未満の区域である (地震)埋立地である 新耐震基準の建物である 拠点スペース確保可能である 建物全体のなかで市民避難スペースを確保することは可能 BCP計画において担保する	(津波)津波想定0.3m未満の区域である (土砂)土砂災害想定区域ではない (内水)浸水0.5m未満の区域である (地震)埋立地である 新耐震基準の建物である。 拠点スペースは確保可能である 建物全体のなかで市民避難スペースを確保することは困難 BCP計画において担保する	(津波)津波想定1.0未満の区域である (土砂)土砂災害想定区域ではない (内水)浸水0.5m未満の区域である (地震)埋立地である 新耐震基準に従って建てることとなる。 拠点スペースは確保可能である 建物全体のなかで市民避難スペースを確保することは困難 BCP計画において担保
早期実現性	R10	R11	R14
経済性 *20年市純負担 *20年総コスト *民間活力可能性	3,902百万円 5,772百万円 PFI不可	4,808百万円 4,808百万円 PFI不可	5,548百万円 7,838百万円 PFI可